

令和2年度【第3回】

在宅医療ステップアップ研修会

けや木薬局

矢田部浩一

【患者情報】

氏名：A・Hさん 年齢：84歳 性別：男性

主病名：前立腺癌末期、腹膜播種、骨転移

家族構成：内縁の妻

性格：神経質・頑固・わがまま・男尊女卑

※詳細は事前配布課題を参照

薬剤師として、
どんな行動や態度でこの患者さん
に向き合いますか？
また、患者さんが抱える問題点は？

検討1

皆さんの意見は？

- ・冷静になるまで待つ
- ・とりあえず話を聞く
- ・病院は死ぬ場所ではないので
仕方がないと思う
- ・薬剤師の仕事ではない

検討1

フォロー内容

- ① 思い込みと誤解
- ② 苦痛と悲嘆
- ③ 薬剤師と患者の距離感

検討1

①思い込みと誤解

患者さんの訴えを聞くうえで
最も重要なことは、

何が事実であるかということ

検討1

① 思い込みと誤解

事実 ≠ 患者の認識

- ・ 退院 (⇒ 見捨てられた)
- ・ 抗がん剤の中止 (⇒ 死の宣告)
- ・ 在宅医療 (⇒ 死の医療)

検討1

①思い込みと誤解

多くの事実は、
患者さんの**解釈**によって
誤って**認識**されてしまう

検討1

①思い込みと誤解

じゃ、なぜ患者さんは

多くの誤解を抱えてしまうのか？

検討1

①思い込みと誤解

患者さんが抱える『**苦しみ**』を
医療従事者がサポート
できていない可能性がある

検討1

②苦痛と悲嘆

患者さんが抱える『**苦しみ**』を
キャッチしているか？
そもそも、『**苦しみ**』を理解
しているか？

検討1

② 苦痛と悲嘆



検討1

② 苦痛と悲嘆

身体的苦痛

精神的苦痛

全人的苦痛
トータルペイン

社会的苦痛

スピリチュアル
ペイン

検討1

②苦痛と悲嘆

“痛みを伴う苦しさ”の奥にあるもの

人としての尊厳が失われる恐怖

検討1

③薬剤師と患者の距離感

私たち薬剤師は、
苦しんでいる人の気持ちを
すべて理解することはできない

検討1

③薬剤師と患者の距離感

しかし、相手にとって

私たちは“**理解者**”に

なることはできる

検討1

③薬剤師と患者の距離感

患者さんの訴え

まとまりがない
抽象的

伝えたいこと

薬剤師

- ① キャッチ
- ② 要約・解釈
- ③ 言葉で返す

検討1

③薬剤師と患者の距離感

患者さんが求めることは、

私たちが最後まで

見捨てないことです

【患者情報】

氏名：K・Sさん 年齢：71歳 性別：男性

主病名：S状結腸癌、癌性腹膜炎

家族構成：妹夫婦と同居

性格：穏やか(いつも笑顔)

拒薬：無 服用・管理：良好(妹さんが管理)

※詳細は事前配布課題を参照

薬剤師として、

あなたは悲痛にあえぐ家族に

どのような言葉で寄り添いますか？

検討2

皆さんの意見は？

- 何も言わずただ黙って聴く
- 兄妹の人生を肯定するような言葉をかけてあげる
- 現状を大切にすることを伝える
- お気の毒としか言いようがない

検討2

フォロー内容

- ① 思いのすれ違い
- ② 家族の支え

検討2

思いのすれ違い

本人の思い・考え

不幸・損

家族の幸せ

家族の思い・考え

検討2

すれ違いの解消

本人の思いや考えを伝える
機会をつくってみる

- ・手紙
- ・ビデオ

検討2

『寄り添う』とは何か？

検討2

家族の支え

患者さんを支える家族にこそ
支えが必要

【患者情報】

氏名：T・Mさん 年齢：85歳 性別：男性

主病名：左上葉小細胞肺癌

家族構成：息子二人（仙台・新潟）

妻は数年前に死別

性格：心配性、こだわりが強い

（融通が利かない）

住まい：サ高住

※詳細は事前配布課題を参照

薬剤師として、
どのような返答でこの患者さんの
悩みに寄り添いますか？

検討3

皆さんの意見は？

- ・天国を望んでいるなら、「天国に行けますよ」と答えて安心させる。
- ・「死とは無である」と答える。
- ・そんなことは考えなくてよいと説明する。

検討3

フォロー内容

- ① 宗教観
- ② 死前ケア

検討3

①宗教観

信仰は土地によって異なる
宗教は家・人によって異なる

その人がもつ宗教観を
肯定してあげることが大切

検討3

②死前ケア

存命のうちに、

『死という恐怖の緩和』

『生きている意味の認識』

をできるだけサポートする

薬剤師のための 死生観

死生観

「死」と「生」についての
考え方

3つの真実

- ①人は必ず死ぬ
- ②人生は1度きり
- ③人はいつ死ぬか
分からない

“自分はどう生きるか？”

死生観がなぜ必要なのか？

薬剤師は、“人の命を預かる身”
として、「生」と「死」を
深く考える責任がある

「メメント・モリ」の警句

「死を想え」
「自分がいつか必ず
死ぬことを忘れるな」

死生観を定めることで
人生の価値観が変化

①「死」を意識すると
人生の密度が変化する

もし、たった今、
自分が死の宣告を受けたら？
家族が死の宣告を受けたら？

②「死」を意識すると
逆境に強くなる

何か困ったことが起きたとしても
「命を失うこと」ほど大変なものは
この世にないと割り切れる

③「死」を意識すると
人生の解釈力が身につく

“何が起こったか”が人生を
分けるのではなく、
起こったことを“どう解釈するか”
で人生が分かれる

④「死」を意識すると
人生の責任力が強くなる

何が起きようとも、
“自分に必ず責任がある”

⑤「死」を意識すると
使命感が身につく

たった1回の人生に、
自分の命をどう使うか？

⑥「死」を意識すると
人間力が磨かれる

己の未熟さを自覚した上で、
“成長したい”という純粹な思い

自分の死生観を定める

- 命とは「生」と「死」である
- 人生には限りがある
- かけがえのない命をどう使うか

本日はありがとうございました

患者さんを支える
私たちもまた、
たくさんの人によって
支えられている